

障害児心理学

専門教育科目 / 4 単位 / T 授業

担当教員 関 丙言

■使用テキスト 井澤信三・小島道生(編著)『障害児心理入門(第2版)』ミネルヴァ書房

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

「障害児心理学」の世界は、非常に幅が広く、奥が深い。一つ一つの専門性が高く、知識と深い洞察力が求められる学問である。本講義では、(1)「障害分類と捉え方」「障害児教育の基礎」「障害児者福祉の基礎」といった基礎知識について学ぶ。(2)さまざまな障害における基礎知識、すなわち「障害の定義・原因等」「心理・行動特性」「支援」について知り、障害児・者に対する心理・支援のあり方について理解を深めることがねらいである。具体的には、「視覚障害」「聴覚障害」「肢体不自由」「重度・重複障害」「病弱」「知的障害」「LD・ADHD」「自閉症」といった多様な障害を扱うとともに、療育・教育・福祉現場での実際についても学習する。

到達目標

- 1)代表的な障害(例:視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、発達障害等)の定義、原因、心理・行動特性について、説明することができる。
- 2)特別支援教育の概要について、説明することができる。

評価方法

科目単位認定試験により評価。

学習指導

序章 障害児・者を巡る動向

1. 障害分類と障害の捉え方

ポイント:ここでは、障害分類と障害の捉え方を理解すること、特に、国際障害分類(ICF)について理解を深める。

2. 障害児教育の基礎

ポイント:ここでは、現在の特別支援教育制度が成立するまでの障害児教育の歴的変遷、特別支援教育制度におけるシステム、「特別支援学校」「特別支援学級」「通級による指導」「通常学級における指導」について理解する。また、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「校内委員会」「特別支援教育コーディネーター」について理解する。

3. 障害児・者の福祉の基礎

ポイント:ここでは、障害児・者福祉の基礎となるノーマライゼーション理念を理解した上で、障害児・者福祉の変遷および現行の福祉システムについて、乳幼児期から青年・成人期という一生涯を支えるという福祉の視点から理解する。

第 I 部 理解と支援のための障害児心理学

第 1 章 視覚障害

この章のポイント

視覚障害の定義、原因、出現率といった基礎知識、視覚障害児の発達の様相、および心理・行動特性、さらにそれらに基づいた支援の概要について理解する。

第 2 章 聴覚障害

この章のポイント

聴覚障害の定義、程度による分類といった基礎知識、および聴覚障害児の心理・行動特性(言語・コミュニケーション、認知、社会性、障害認識とアイデンティティの各側面から)、さらにそれらに基づく支援の概要について理解する。

第 3 章 肢体不自由

この章のポイント

肢体不自由の定義と代表的な障害例(脳性マヒ、二分脊椎、進行性筋ジストロフィー)に関する基礎知識、および肢体不自由児の心理・行動特性(特に全般的傾向)、それらに基づいた支援の概要(脳性マヒ、二分脊椎、進行性筋ジストロフィーごと)について理解する。

第 4 章 重度・重複障害

この章のポイント

重度・重複障害の定義と代表的な障害例(盲ろう、重症心身障害)に関する基礎知識、および重度・重複障害児の心理・行動特性(発達の特徴、コミュニケーションの特徴、行動的特徴)、それに基づいた支援の概要について理解する。

第 5 章 病弱

この章のポイント

病弱の定義と病弱教育の対象となる代表的疾患、病弱児の発達の様相(乳児期～幼児期～学童期～思春期・青年期)、病弱児の心理・行動特性(主に、病状別の心理状態)、さらにそれらに基づいた支援の概要(ストレス、セルフエフィカシー、認知行動療法等)について理解する。

第 6 章 言語障害

この章のポイント

言語障害の定義、言語障害の種類と特徴(音声障害、構音障害、吃音、言語発達遅滞)、および言語障害児の心理・行動特性(幼児期前期、幼児期後期から学齢前期、学齢中期以降)、さらにそれらに基づいた支援の概要(音声障害、構音障害、吃音、言語発達遅滞ごと)と指導・支援機関について理解する。

第 7 章 知的障害

この章のポイント

知的障害の定義、原因、出現率、分類といった基礎知識、および知的障害児の心理・行動特性(言語・コミュニケーション、認知、行動)、さらにそれらに基づいた支援の概要(気づき、支援の流れ、アセスメント、支援の技法)について理解する。

第 8 章 LD・ADHD

この章のポイント

LD(学習障害)と ADHD(注意欠陥多動性障害)の定義、発生メカニズム、出現率と発達様相といった基礎知識、および LD・ADHD 児の心理・行動特性、さらにそれらに基づいた具体的な支援方法について理解する。

第9章 自閉症

この章のポイント

自閉症の歴史と原因、定義、概念(自閉症スペクトラム、広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー障害)、自閉症を特徴づける行動的症狀(社会的相互交渉の障害、コミュニケーションの障害、想像力とこだわりの障害)といった基礎知識、自閉症児の発達の様相(乳幼児期～児童期～青年・成人期)、および心理・行動特性、さらにそれらに基づいた支援の概要について理解する。

第Ⅱ部 現場からのレポート

第Ⅱ部では、以下の15の現場の実際・現状について記述されている。第Ⅰ部の学習後に、参考にしてほしい。

①小学校通常学級、②中学校通常学級、③小学校特別支援学級、④中学校特別支援学級、⑤小学校通級指導教室、⑥中学校通級指導教室、⑦特別支援学校(知的障害)、⑧特別支援学校(聴覚障害)、⑨特別支援学校(視覚障害)、⑩特別支援学校(肢体不自由)、⑪高等特別支援学校、⑫特別支援教育コーディネーター(特別支援学校)、⑬発達障害者支援センター、⑭成人期・知的障害児関係施設、⑮民間療育機関